

当資料は、4ページ組みとなります。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、当ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。そのため、投資元金が保証されているものではありません。当資料の3ページ目に『主な投資リスク』ならびに『ご留意いただきたい事項』を記載しておりますので、必ずご覧ください。

追加型投信/国内/株式

# ラッセル 日本株式ファンド I

RUSSELL JAPAN EQUITY FUND

## ◆運用成果

基準価額		
前月末	今月末	前月末比
7,273円	7,176円	-97円

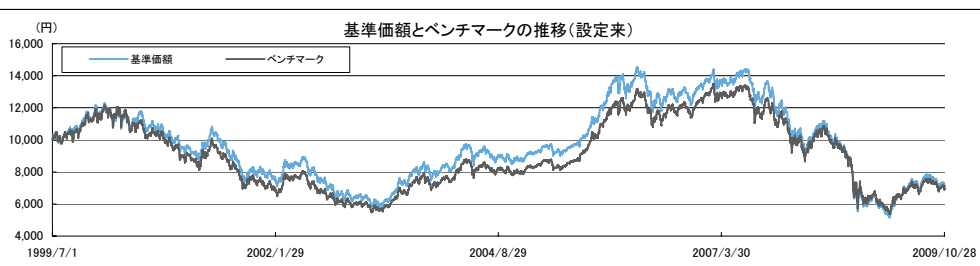
純資産総額: 863百万円

- ・ラッセル 日本株式ファンド I は、その資金を主としてラッセル 日本株式マザーファンドに投資して効率的な運用をいたします。
- ・ラッセル 日本株式マザーファンドは、日本国内の株式を主要投資対象とし、信託財産の長期的成長を図ることを目的とします。
- ・ベンチマーク TOPIX (配当込み)

## 期間別騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年間	過去3年間	設定来
ファンド	-1.3%	-5.9%	9.9%	11.6%	-44.5%	-28.1%
ベンチマーク	-1.7%	-5.1%	7.5%	5.3%	-41.7%	-30.0%

設定日	1999年7月1日
償還日	無期限
決算日	毎年4月18日(原則)
信託報酬率	年2.4885%(税込)



\* 基準価額は信託報酬控除後のものです。また、ベンチマークは設定日を10,000円として指数化したものです。  
\* 運用成果は過去の実績であり、将来の結果をお約束するものではありません。また、運用成果は実際の投資家利回りとは異なります。ベンチマークのグラフは当該指数の実績を示すものであり、当ファンドの実績あるいは将来の成果を保証するものではありません。

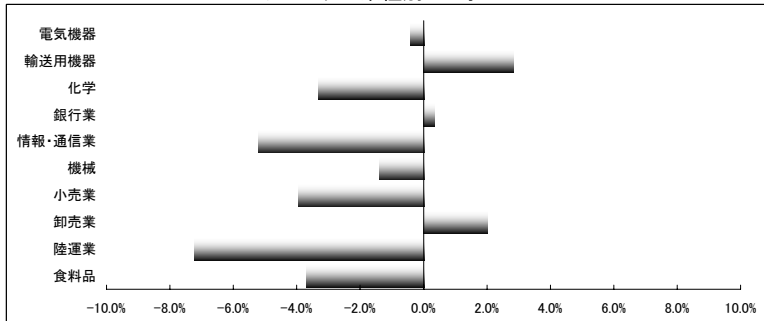
TOPIXは、株式会社東京証券取引所の知的財産であり、株価指数の算出、公表、利用などTOPIXに関するすべての権利およびTOPIXの商標に関するすべての権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。また、これらの情報は信頼のおける情報源から得たものではありませんが、株式会社東京証券取引所はその確実性および完結性に責任を負うものではありません。

## ◆ファンドの内容

### 上位10業種配分

業種	組入比率※1	ベンチマーク
電気機器	16.9%	14.4%
輸送用機器	9.0%	10.2%
化学	7.5%	5.8%
銀行業	7.2%	9.6%
情報・通信業	7.0%	5.6%
機械	4.9%	4.6%
小売業	4.8%	3.6%
卸売業	4.7%	4.9%
陸運業	3.7%	3.9%
食料品	3.2%	3.4%

### ベンチマークの業種別パフォーマンス



### 株式保有上位10銘柄

組入銘柄数: 304 銘柄

銘柄	業種	組入比率※1
三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.1%
三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.8%
日本電信電話	情報・通信業	2.8%
トヨタ自動車	輸送用機器	2.6%
本田技研工業	輸送用機器	2.2%
野村ホールディングス	証券・商品先物取引業	1.9%
オリックス	その他金融業	1.7%
三菱商事	卸売業	1.7%
東日本旅客鉄道	陸運業	1.6%
三井物産	卸売業	1.4%

### 外部委託先運用会社※2

運用会社	運用スタイル	目標配分割合※3
JPモルガン・アセット・マネジメント	グロース型	22%
パイビュー・アセット・マネジメント	グロース型	18%
GLGパートナーズ・インターナショナル	バリュー型	18%
アライアンス・バーンスタイン	バリュー型	20%
ファンネックス・アセット・マネジメント	マーケット・オリエンテッド型	22%

※1 組入比率はマザーファンドにおける株式評価額合計に対する割合に、当ファンドにおけるマザーファンドの組入比率率を乗じて得た割合です。  
※2 マザーファンドで採用している外部委託先運用会社(「フランク・ラッセル・カンパニー」を除く)です。  
※3 マザーファンドにおける目標配分割割で、キャッシュ・エクイティ・ポジション(流動資産の株式化)部分を除きます。

## ◆運用状況

10月の国内株式相場は一進一退の展開となりました(TOPIX(配当込み)は前月末比1.7%下落)。国内株式相場は、円高による企業業績の悪化懸念等を受けて下落して始まりました。月半ばにかけて、米国企業の好決算等を受けて上昇に転じたものの、月後半には、世界的な景気回復見通しの後退、航空大手の再建問題や2010年度の予算編成に伴う財政悪化懸念の高まり等の民主党政権の政策に対する不透明感等が嫌気され、再び下落に転じ、最終的に前月末を下回る水準で終えました。スタイル別では、Russell/Nomuraグロース指数は1.9%の下落、同バリュー指数は1.6%の下落となり、バリューやや優位の展開となりました。こうした中、ラッセル 日本株式ファンド I の基準価額は前月末比1.3%下落しました。10月は、5社中1社がベンチマークを下回ったものの、残り4社がベンチマークを上回り、マザーファンド全体でベンチマークを上回りました。マーケット・オリエンテッド型のファンネックスは、販売が堅調な低価格帯住宅分譲関連銘柄や半導体メモリ事業等の収益が改善した大手電気機器銘柄等がプラスに寄与し、ベンチマークを上回りました。一方、バリュー型のGLGは、小売銘柄が個人消費の先行き不透明感が根強い中でマイナス要因となった他、上昇した輸送用機器セクターの無保有等がマイナス要因となり、ベンチマークを下回りました。なお、マザーファンド全体では、電気機器および化学セクター等での銘柄選択、電気・ガスセクターのアンダーウェイト等が奏功し、ベンチマークを上回りました。

当資料は、4ページ組みとなります。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、当ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。そのため、投資元金が保証されているものではありません。当資料の3ページ目に『主な投資リスク』ならびに『ご留意いただきたい事項』を記載しておりますので、必ずご覧ください。

追加型投信／国内／株式

# ラッセル 日本株式ファンド I

RUSSELL JAPAN EQUITY FUND

## 外部委託先運用会社リスト

### ラッセル 日本株式マザーファンド

ラッセル 日本株式マザーファンドは、国内の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とし、安定的にベンチマーク(TOPIX・配当込み)を上回ることを目標として運用を行います。複数の運用スタイルと運用会社を採用することにより、ファンド全体でリスクをコントロールしながら、超過収益の獲得を目指します。グロース型、バリュート型、マーケット・オリエンテッド型などの運用スタイルだけでなく、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用会社の特性を最大に活かせるようファンドを運用します。

#### JPモルガン・アセット・マネジメント(日本) <グロース型> 22%

JPモルガンが当ファンド委託部分の運用に用いる投資アプローチは、利益成長性はあるが市場がまだ認識していない証券に投資することにより超過収益を追及します。「Growth at a Reasonable Price(成長株式を適正なプレミアム水準で投資する)」という基本方針の下、運用担当者による会社訪問を基本とする徹底したボトムアップ・アプローチによる調査・分析を行います。

#### ベイビュー・アセット・マネジメント(日本) <グロース型> 18%

ベイビューは、企業業績や財務内容などのファンダメンタルズ分析に基づいたボトムアップと投資テーマを的確に捉えたトップダウンを巧みに融合した投資プロセスが特徴です。次世代をリードする企業の可能性、同業他社との競争優位性とその持続期間、業績衰退期における収益回復の可能性などを重視して銘柄を選択します。

#### GLGパートナーズ・インターナショナル(英国) <バリュート型> 18%

GLGは、バリュート型運用の一手法である逆張り投資を投資方針としており、企業の本来価値に注目して割安に放置されている銘柄を発掘します。特に低PBR(株価純資産倍率)、高配当銘柄に着目することになります。ボトムアップの銘柄選択に重点をおくため、セクター配分は銘柄選択の結果であり、インデックスを意識したものにはなっていません。複数のリスクモデルはポートフォリオが意図しないところでリスクを取っていないかを確認するために使用されます。

#### アライアンス・バーンスタイン(日本、香港) <バリュート型> 20%

アライアンスのバリュート株式運用は、綿密でかつ質の高い企業調査とクオンツ・モデルを併用し、現在の株価と本質的な企業価値の差を捉えることにより超過収益の獲得を目指すというものです。クオンツ・モデルを用いた業種内およびグローバル・セクター間での相対バリュエーション(投資価値)比較により銘柄を選別、更にアナリストが詳細な調査に基づき長期の収益およびパフォーマンスを予想、割安に放置されている銘柄を見出します。

#### ファンネックス・アセット・マネジメント(日本) <マーケット・オリエンテッド型> 22%

ファンネックスは、日本株式に特化したブティック型の運用会社で、経験豊富で優秀なポートフォリオ・マネージャーと優れたアナリストからなるチームが運用を行います。運用プロセスは、市場の短期トレンドや将来中長期的に市場をけん引する投資テーマを分析し、詳細な企業リサーチを基に投資銘柄を選定します。

(注) キャッシュ・エクイタイゼーションや他の外部委託先運用会社の変更時における資産の移転管理および一時的な運用等のために、上記の外部委託先運用会社の他に、「フランク・ラッセル・カンパニー」を採用しています。

### ラッセル・インベストメント株式会社

ラッセル・インベストメント株式会社は、世界46か国のお客様に総合的な資産運用サービスを提供するラッセル・インベストメント グループの日本における拠点です。これまでラッセル・インベストメント グループが世界で提供してきた“マルチ・マネージャー・ファンド”を日本で初めて設定・運用管理し、日本の投資家の皆様にご提供致しております。

### ラッセル・インベストメント グループ

ラッセル・インベストメントは、現在世界46か国において、年金、金融機関および個人投資家など様々な投資家の皆様を対象に総合的な資産運用ソリューションを提供しています。グローバルに行う運用会社調査をもとに、資産運用、オルタナティブ投資、確定拠出年金サービス、資産運用コンサルティング、売買執行管理、株式インデックスの開発など幅広く業務を行っており、現在当グループが提供するファンドの運用資産総額は約16兆円※となっています。(※ 2009年9月末現在、為替換算レート: 89.53円/ドル)

当資料は、4ページ組みとなります。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、当ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。そのため、投資元金が保証されているものではありません。当ページに『主な投資リスク』ならびに『ご留意いただきたい事項』を記載しておりますので、必ずご覧ください。

追加型投信／国内／株式

## ラッセル 日本株式ファンド I

RUSSELL JAPAN EQUITY FUND

### ◎主な投資リスク

＜以下に記載する基準価額の主な変動要因により、投資元金を下回るおそれがあります。＞

※投資リスクおよび留意点はこれらに限りません。詳細は投資信託説明書(目論見書)をご覧ください。

#### 1. 株価変動リスク

株価は国内外の景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受けます。一般に、株価が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。

#### 2. 株式の発行会社の信用リスク

株式の発行会社の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が下落した場合には、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。

#### 3. 流動性リスク

当ファンドで短期間に相当金額の換金申込みがあった場合、組入株式を売却することで換金代金の手当てを行います。組入株式の市場における流動性が低いときには、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があり、当ファンドの基準価額が下落する要因となります。

### ◎ご留意いただきたい事項

当資料はラッセル・インベストメント株式会社が当ファンドの運用状況等に関する情報の提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得のお申込みにあたっては、必ず投資信託説明書(目論見書)を販売会社でお受取りになり、内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

**1. 当ファンドは主に国内の株式を実質的な投資対象としますので、組入株式の価格の下落ならびにそれらの発行会社の倒産または財務状況の悪化等の影響により、当ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、投資元金が保証されているものではありません。投資した資産の価値の減少を含むリスクは投資信託をご購入のお客様が負います。**

2. 当ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。そのため、当ファンドが投資対象とするマザーファンドを投資対象とする他のベビーファンドに追加設定・解約等を伴う資金変動等があり、その結果当該マザーファンドにおいて売買等が生じた場合等には、当ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

3. 金融商品取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他合理的な事情があると委託会社が判断したときは、委託会社は信託約款の規定に従い、当ファンドの受益権の取得申込み、換金申込みの各受付けを中止すること、および既に受付けた取得申込み、換金申込みの各受付けを取り消す場合があります。

4. 信託約款で定められた信託期間中であっても、信託契約の一部解約等の影響により、純資産総額が小さくなった場合等には期日を繰り上げて償還することがあります。

5. 投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、投資元金の保証はありません。投資した資産の価値の減少を含むリスクは投資信託をご購入のお客様が負います。

6. 投資信託は、預金、保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

7. 金融商品取引業者(従来の証券会社)以外の登録金融機関でご購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

8. 法令・税制・会計方法等は今後変更される可能性があります。

9. 投資信託は、書面による契約解除(クーリング・オフ)の対象ではありません。

10. 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

当資料は、4ページ組みとなります。当ファンドは、**値動きのある有価証券等に投資しますので、当ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。そのため、投資元金が保証されているものではありません。**当資料の3ページ目に『主な投資リスク』ならびに『ご留意いただきたい事項』を記載しておりますので、必ずご覧ください。

追加型投信／国内／株式

# ラッセル 日本株式ファンド I

RUSSELL JAPAN EQUITY FUND

## ラッセルのマルチ・マネージャー運用の特徴

### 1 世界中から優れた運用会社を厳選

ラッセルが世界各国に展開する各拠点をベースに、約90名<sup>※1</sup>の“運用会社調査の専門家”が日本株式を含む約8,000<sup>※2</sup>の運用商品を徹底的に調査し、優れた運用会社を発掘します。(※1:2009年6月末現在、※2:2008年12月末現在)

### 2 運用スタイル毎に優れた運用会社を結集し、最適なポートフォリオを構築

複数の運用スタイルに分散し、それぞれの運用スタイルにおいて優れた運用会社を採用することで、日々変化する投資環境の中にあっても、ファンド全体として中長期的に安定した運用成果を目指します。

### 3 厳選された運用会社を継続的に監視、最適と判断される状態を目指す

いかに優れた運用会社でも、運用会社内外の状況の変化により、その運用力を発揮できない場合があります。そこでラッセルでは継続的な調査活動に基づき、運用会社の変更や追加等を行い、最適と判断される運用会社の構成を目指します。

## お申込みメモ

※詳細については投資信託説明書(目論見書)をご覧ください。

お申込み	原則として毎営業日。お申込みの受付時間は、午後3時(半日営業日の場合は午前11時)までとなります。 <b>なお、2009年9月28日以降、ご購入のお申込みの受付を停止します。</b>
お申込単位	10万円以上1円単位です。
お申込価額	お申込受付日の翌営業日の基準価額
ご換金のお申込み	原則として毎営業日。お申込みの受付時間は、午後3時(半日営業日の場合は午前11時)までとなります。ご換金の代金は原則として、お申込受付日から起算して5営業日目からお支払いいたします。なお、大口のご換金は制限することがあります。
ご換金価額	ご換金申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	原則として無期限です。 <b>なお、信託の終了(繰上償還)に係る手続きを行っており、信託を終了(繰上償還)することとなった場合、信託期間は2010年1月18日までとなりますので、ご注意下さい。</b>
決算	年1回(毎年4月18日。ただし、休業日の場合は翌営業日。)
収益分配	決算時に基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配を行わないことがあります。分配金は原則として税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。なお、分配金を再投資せず、お受け取りになることも出来ます。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
課税関係	当ファンドは、課税上、株式投資信託として取扱われます。 個人の受益者については、収益分配時の普通分配金ならびにご換金時および償還時の価額から取得費を控除した差益に対して課税されます。 (2009年10月末日現在の情報です。税法が改正された場合等は、上記の内容が変更になる場合があります。)

## 当ファンドの諸費用について

下記の費用(手数料等)については、お申込金額、保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することができません。

### ①お客様に直接ご負担いただく費用

お申込手数料	ありません。
ご換金手数料	ありません。
信託財産留保金	ありません。

### ②保有期間中に間接的にご負担いただく費用(信託財産から差し引かれるものでお客様に別途ご負担いただくものではありません。)

信託報酬	純資産総額に年2.4885%(税抜2.37%)を乗じて得た金額とします。 ※税法が改正された場合は、消費税等相当額が変更になることがあります。 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用をいたします。当ファンドが主要投資対象としますマザーファンドは外部委託先運用会社に運用委託をしております。その費用は、上記信託報酬に含まれております。
その他費用	組入れ有価証券の売買委託手数料、先物・オプション取引に要する費用、当ファンドの一部解約に伴う支払資金の手当てを目的とした借入金利息、信託事務の処理に要する費用、信託財産に関する租税、受託会社が立て替えた立替金の利息・借入金の利息等 ※その他費用については、運用状況等により変動するものであり、あらかじめ料率、上限等を記載することができません。

## ファンドの関係法人

委託会社	ラッセル・インベストメント株式会社(信託財産の運用の指図等を行います。) 金融商品取引業者:関東財務局長(金商)第196号 加入協会:(社)投資信託協会/(社)日本証券投資顧問業協会/日本証券業協会 TEL 03-5411-1515(受付時間:営業日の午前9時~午後5時(半日営業日の場合は午前9時~午前11時)) http://www.russell.com/jpin/
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社(信託財産の保管・管理等を行います。)
販売会社	株式会社 三菱東京UFJ銀行(当ファンドの販売業務等を行います。) 登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号 加入協会 日本証券業協会/(社)金融先物取引業協会